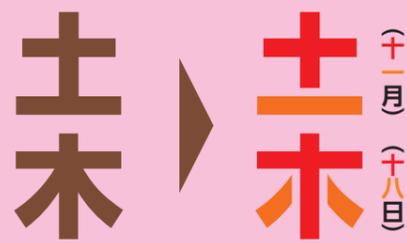


11月18日は土木の日です

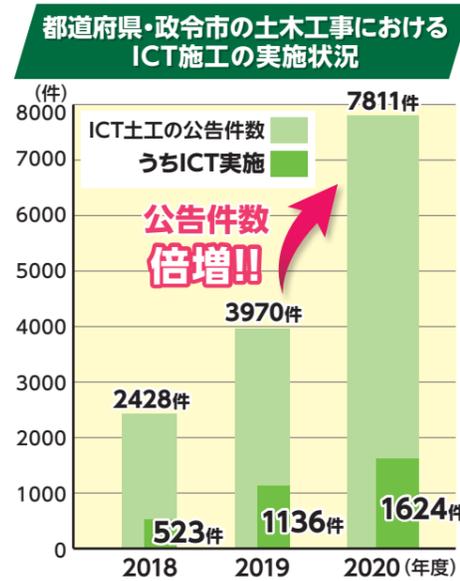
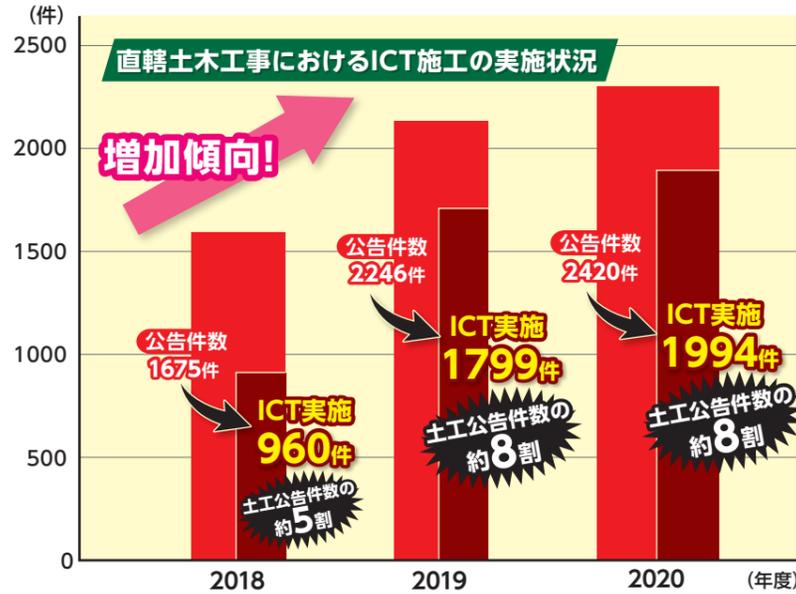
漢字の「土」「木」の2文字を分解すると「十一」と「十八」になることと、土木学会の前身である「工学会」の創立が1879年11月18日であることに由来し、関係諸官庁および諸団体の支援を得て、この日が「土木の日」と制定されました。
また土木学会では、11月18日から創立記念日である11月24日までの1週間を「くらしと土木の週間」とし、各種イベントを含めた特色ある活動を展開しています。



参考:「ICT施工の普及拡大に向けた取組」(国土交通省) (https://www.mlit.go.jp/common/001415324.pdf) を加工して作成

ICT施工について

ICT施工とは、調査・設計・施工・維持管理・修繕の生産システムにおいてICT(情報通信技術)を全面的に活用する工事のことです。ICTを施工に適用して多様な情報の効率的な活用により、工程全体の生産性の向上や品質の確保等を図ります。



参考:「災害復旧等の迅速化・効率化に関するICTの活用」(国土交通省) (https://www.mlit.go.jp/river/bousai/hukkyu/pdf/00-index-ict.pdf) を加工して作成

災害復旧等の迅速化・効率化に関するICTの活用

災害緊急調査等における課題

- アナログ方式、人海戦術による調査
- 道路寸断により移動手段が限定され、被害の全容把握に時間を要する
- 二次災害の危険性
- 写真・スケッチが主体であり、精度が悪い
- 復旧事業には、再度、詳細調査が必要



ICT活用による効果

- 現地計測時間(外業)の短縮(時間・人員のコストダウン)
- 被災直後の詳細測量により実施設計、施工までの必要な情報を取得
- 短時間の広範囲測量により、机上にて復旧計画検討が可能



レンタルのニッケン

ホームページでも最新情報をお届けしています。是非ご覧ください。

レンタルのニッケン 検索

安全ニュースのご活用について

- 弊社は皆様の安全作業に関するよりよい情報をご提供するため、安全ニュースの製作・配布に取り組んでおります。下記、ご理解いただき、ご活用いただけますようお願い致します。
- 安全ニュースの一部または全部において、個人・法人を問わず、弊社および引用先(各種団体など)の許諾を得ずに、いかなる方法においても、営利目的にて、無断で販売・複写・複製・貸付・加工・加筆および、公衆送信(インターネットやそれに類した送信)などを利用して提供することを禁じております。
 - 弊社は、本紙の内容において如何なる保証も行いません。
 - 本紙内容にて発生した障害および事故についても、弊社は一切責任を負いません。

レンタルのニッケン 公式 Twitter 情報発信中!

フォロー宜しくお願ひします!

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

レンタルのニッケン -Safety News- 安全ニュース

2022年 11月号 NO. 251

株式会社レンタルのニッケン
編集・発行 安全技術部/営業企画部
お問い合わせ TEL.03-5512-7411
発行日 2022年11月1日



特集 秋季全国火災予防運動

- 火災発生状況
- ICT施工について
- 作業現場における「火災事例」と「防火対策」

2022年 12月号の予告

飲酒

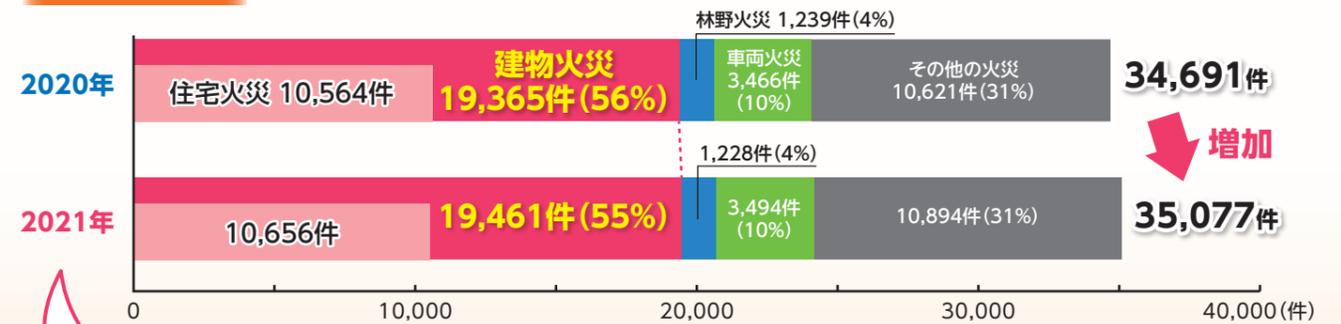
11月9日から15日まで「令和4年秋季全国火災予防運動」

全国统一防火標語 お出かけは マスク戸締り 火の用心

参考:「令和3年(1月~12月)における火災の概要(概数)について」(総務省消防庁) (https://www.fdma.go.jp/pressrelease/statistics/items/a46e444101fa5056cc436125bbb12f18c8245081.pdf)、
「労働災害統計」(厚生労働省) (https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.htm) を加工して作成。※割合(%)の合計は端数処理上100%にならない場合があります。

火災発生状況

総出火数



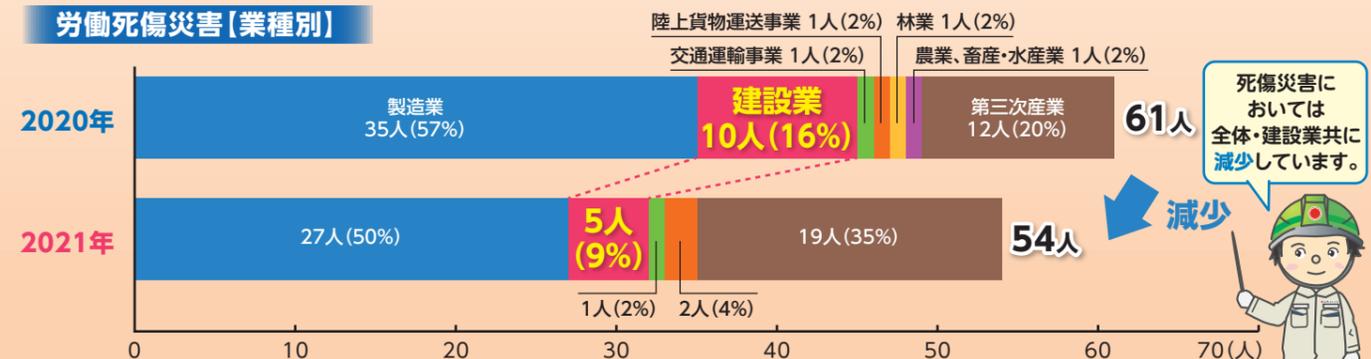
2021年における状況

負傷者数 前年比 214人 減 5,369人
死亡者数 前年比 74人 増 1,400人

原因別 ワースト4

1	放火と放火の疑い	3,859件
2	たばこ	3,017件
3	たき火	2,725件
4	こんろ	2,667件

労働死傷災害(業種別)



死傷災害においては 全体・建設業共に 減少しています。

★ ホームページにも掲載しております!是非ご覧ください。★

作業現場における「火災事例」と「防火対策」

作業現場における火災は、ちょっとした不注意や作業手順・計画の不備に起因するものが多くあります。「UFO行動」を意識して皆で声を掛け合い、「しない!・させない!」ことが防災の基本といえます。



溶接作業による火災

飛び散った火花が溶接機内に入り込み内部の油分に引火した

高所作業車にて

飛び散った火花がエンジンの防音ケース内部の油分に引火し全焼した

エンジン式ミニナイターの横にて

通風口より火花が侵入

対策 火花が飛び散る範囲は引火防止措置を取る

- 可燃物の付近で作業をしない。
- 引火性、爆発性の物品のあるところで作業をしない。
- 建物内で可燃性ガスや粉じんのあるところでは、換気や清掃を十分に行い、火気の取扱いを制限する。
- 消火器などの消火準備をするとともに、作業場周辺の点検や作業中の監視を行う。



排気熱による火災

排気方向に可燃物を置いたまま使用したため、排気熱によって発火した

ウエスが排気マフラーにかかっていたため、排気熱によって発火した

対策 排気熱の出る箇所に注意して配置する

- 周囲に可燃物や引火物、油脂類を置かない。
- 車載したままやむを得ず使用する場合、積み込み時に排気方向に注意して積み込みする。
- 排気マフラー等も排気熱が出るので注意が必要。



燃料を原因とする火災

給油時、あふれたガソリンをそのままにしたため引火して発電機が全焼

対策 規定量以上給油しない

- 燃料の給油はゆっくりと落ち着いて行い、規定量を守る。
- 万一燃料がこぼれた場合はただちにウエス等で拭き取る。



参考 燃料の引火点

重油	60~100℃	可燃性の物質から発生する蒸気が火を近づけたときに発火する最低温度を引火点といいます。
軽油	50~70℃	
灯油	40~60℃	
ガソリン	-40~-43℃	

コードリールの過負荷による火災

巻いた状態のまま使用したためドラム全体が過熱し出火した

対策 コードリールは必ずコードをのばして使用する

- コードを巻いたままの作業は、許容電流が1/3ほどに低下する。

【例】15A仕様のコードリールの場合

$$15A \times 1/3 = 5A$$

■ 7Aの電動工具を2台使用した場合は

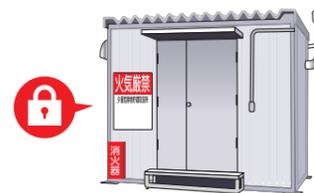
7A + 7A = 14A

許容電流の約3倍

発熱状態になり焼損・火災

防火対策 共通事項

工事現場には様々な資材や危険物がある為、注意しましょう



危険物の管理

- 危険物は決められた不燃性の保管庫に収納し施錠して管理する



防火訓練の実施

- 消火器の準備、使用期限の確認をする
- 定期的な訓練を実施する



延焼拡大防止

- 避難通路や防火戸、防火シャッターの付近に資材等を置かない
- 作業後は防火シャッターを閉鎖する